

## 研究会（金銭教育）だより ～ 5年生「家庭科」授業研究より

平成16年6月14日

中村京子先生、授業提供ありがとうございました。教科の本質を貫いた上で、金銭教育で大切にしたいことを明らかにし、授業を仕組んでくださいました。今後の教科における金銭教育の進め方を示してくださったように思います。

- \* 授業の中で子どもたちを認め評価する言葉の豊富さがすばらしい。育てたい学習習慣を子どもたちに自覚させる言葉かけである。
- \* 金銭教育でめざす姿を具体化し、キーワードを絞り、焦点をずらさない単元構成であった。
- \* 「家族への感謝」を心から言ったり、感じたりすることができていたと思うので、これからの実践（ぼくにもわたしにもできることの実行）の中でまた今日の授業に戻って気持ちを確かめていくことができそうである。
- \* やらされるお手伝いではなく、家族の一員としての自覚を持って行ってこそ価値のあるものである。その価値を高める授業であった。

### < 課題 >

- \* 本時の気持ちを、自分の生活の中に生かしていくことが実践力を育てることになる。自分がやるべきことはやるんだという強い気持ちを持たせ、これからの指導を家庭と連携して行っていきたい。
- \* 中村教諭の価値付けの豊富さ、タイミングのよさはなかなかまねできることではないが、そのセンスを獲得していくのは自分でしかない。自分を磨きたい。
- \* 子どもたちで授業を作っていくのだという意識を持たせ、子ども同士の交流の姿の見られる授業作りをめざしたい。
- \* 各教科で金銭教育を進めるにあたって、教科の本質を貫いて指導するためには、評価の観点を単元の中で網羅するよう評価基準を設けることがやはり大切である。その中で金銭教育と教科のどこがリンクしているのかをはっきりと示し取り組まないといけない。（そのためには自分で一単元仕組んでみる必要がある。）
- \* 全体計画の中の「めざす子どもの姿」を日常のレベルで具体化すること。「どんな場面で、どんな姿が見られることがよいのか」「そのためにどんな力をつけないといけないのか」「そのためにこの単元ではどこが関わってくるのか」

中村先生は、子どもたち（わたしたちもしかり）をその気にさせるものを豊富に持っていらっしやいます。また、先生の学び続ける姿勢から学ぶことがたくさんあります。授業の提供、本当にありがとうございました。

金銭教育についての「めざす子どもの姿」を具体化し、さらに共通理解を図って取り組んでいかなくはなりません。一学期のうちに、金銭教育とリンクさせた一単元の構想をたて、実践を積んでいきましょう。